

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

66

福岡県立三潁高等学校

自己評価

Table with columns for '学校運営計画(4月)', '評価(総合)', '年度重点目標', and '具体的目標'. It details school goals, operational strategies, and specific targets for the fiscal year.

学校関係者評価

Table with columns for '評価(総合)' and '学校関係者評価委員会からの意見'. It provides an external evaluation of the school and the committee's feedback.

広報活動の活性化	三潁高校の魅力と特徴が伝わるような広報活動の展開	スポーツ文化コース、普通科一般教養コースの魅力と特徴が伝わる学校案内を作成する。中学生や保護者向けの学校説明会の内容を充実させる。	A	A	B	<p>○学校案内パンフレットの作成やHP・SNS等での広報活動を行う中で、本校の実際の様子をより明確に見せる必要性を感じた。学校紹介動画等を用いて学校の様子や実際の生徒の声を流すなど配信の方法を工夫する必要がある。また、本校主催の中学校説明会を実施し、参加者から高評価をいただいた。次年度における実施時期及び回数、場所について検討していきたい。</p> <p>○中学校訪問については、職員全体で取り組むことで定期的に実施できた。次年度は、実施時期、訪問先、配布資料等の訪問内容の精査を行い、更なる充実を図りたい。体験入学を含む広報行事との連携を踏まえた広報活動にしていきたい。</p> <p>○中学生体験入学については、今年度は一般教養コースのみ実施したが、実施時期、スポーツ文化コースの実施も含めるなど、形態についても検討し、充実した内容にしていきたい。</p>
	学校ホームページやSNSによる発信の充実	ホームページ、Twitter、Instagramを活用し、様々な方法で学校情報の配信を行う。 本校の教育活動が具体的に伝わる三潁ニュースを、定期的に作成する。部活動の活躍などの不定期な内容をできる限り早く発信する。	A B			
中学校対策の強化	中学校との信頼関係の構築	中学校担当者による各学期に1回程度の訪問を実施し、学校全体・職員一丸となって広報活動を展開する。 訪問先の中学校出身生徒の情報を具体的に伝え、本校の指導を中学校に理解してもらう。	A B	B	B	
	中学生に向けた三潁高校の魅力の発信	進路相談事業や中学生体験入学で本校生徒の活躍の場と中学生とのふれあいの場を設けるなど、学校の魅力が伝わるよう工夫を行う。 本校主催の学校行事で参加が可能な行事の広報活動を行う。	A B			
生徒部 生徒の人間力の育成	「不易流行（伝統と革新）」を基盤とした、生徒会活動の活性化と学校行事の創出 端正に制服を着こなし、落ち着いた身なりを自ら整えることのできる力の醸成	生徒会・各種委員会生徒のチームワークを深め、生徒自身が主体的に活動でき魅力ある学校行事を目指す。 「地域の中の学校」として、地域行事(城島まつり、エトツ祭等)に積極的に参加し地域貢献を果たすとともに、その経験を通して人間力の向上を目指す。	A A	A	B	<p>○毎月行っているいじめ・生活アンケートについて、実施から情報共有までの期間が短いことがあったため、次年度は年間行事計画の際に、余裕を持った日程組みを行う。また、係からの呼びかけ等により、スムーズな集約を行うようにする。また、生活アンケートについては、全生徒が確実に回答できるように、更なる環境の整備を行うとともに、係と各クラス担任等とが十分に連携を図っていきたい。</p> <p>○生徒会行事の見える化を行い、引き続き計画的な準備・運営を行うために、各種委員会との連携を図っていきたい。</p> <p>○バイク通学者が増加したことで、軽微なものではあるが事故が増加している。交通安全教室の内容改善や交通マナー指導のあり方を検討する必要がある。また、バイク通学者の増加に伴いバイク置き場が不足しており駐輪場の追加整備の検討が必要である。</p> <p>OPTA生活委員会との連携のあり方については、例年どおりという枠に縛られず、現在の学校や生徒の現状を踏まえた上で、指導や補導内容の検討が必要と考える。</p>
		生徒の身なりについて、全職員で「その場でその時指導する」の共通理解のもと指導の徹底を図る。	B			
安心、安全な環境づくり	時間厳守と挨拶の励行による風通しの良い人間関係作り	生徒自らが5分前行動の習慣化とワンストップ挨拶を励行するなど自己責任感を養い、相手を思いやる気持ちを育成する。 教育相談委員会や各学年会等で気になる生徒の情報を共有し、全職員で組織的な対応を行う。	B A	A	B	
	いじめや問題行動の未然防止・早期発見及び的確な早期対応と組織的な対応の実施	アンケート（いじめ・学校生活）を月に1度実施し、生徒の状況把握を要所に行うとともに、職員の情報共有を図り組織的な対応に繋げる。	A			
交通マナー・モラルの向上	交通ルールを遵守する態度の向上と交通モラル、マナーの意識の高揚	交通安全教室、二輪車実技講習を開催することで、生徒の交通安全に対する意識と態度の向上を図る。 PTA生活委員会と連携し、登下校指導や校外補導を推進する。通学マナー、危険箇所の情報を共有し、生徒の交通事故防止に努める	B B	B	B	
		交通安全教室、二輪車実技講習を開催することで、生徒の交通安全に対する意識と態度の向上を図る。 PTA生活委員会と連携し、登下校指導や校外補導を推進する。通学マナー、危険箇所の情報を共有し、生徒の交通事故防止に努める	B B			
部活動の支援	計画的な活動と部活動生徒の支援体制強化	集団としての基礎をしっかりと作り、計画的で効率的な練習を行い、部活動として模範となる活動を目指す。 各部活動生徒が安心、安全に日々の練習が行える環境作りをしていくための支援体制作りを推進する。 生徒の人間力を高めるための活動が目的であるため、協調性や相手を思いやる態度の育成に努める。	B B A	B	B	
		「保健だより」を定期的に発行し、配布の際には保健委員会から連絡を行う。 生徒の健康面や安全面に関する関心や意識を高めるため、「保健だより」の内容について創意工夫する。 校外研修に積極的に参加し、その内容を保健委員会の活動に活かす。	B A A			
保健管理 安全管理	生徒保健委員会の充実と活性化 安全点検の実施と速やかな対応	学期ごとに安全点検を実施し、問題点を速やかに改善できるよう対処する。 教育相談委員会を開催（毎月1回）し、課題を抱える生徒を把握し早期対応にあたる。 課題を抱える生徒や保護者を、専門医療機関、専門職（医療カウンセラーやSC）に適切につなぐ。	A A A	A	A	<p>○保健委員会・美化委員会の集まりを定期的に開催し、校内の点検、ハンドソープ・消毒液等の補充など丁寧に行っていきたい。また、令和7年度は、学校保健会筑後支部において生徒研究発表会での発表が決まっている。研究発表に向けて、研究テーマの決定・準備等を計画的に進めていきたい。</p> <p>○教育相談委員会等で得た情報について、その後の対応や情報共有を更に緊密に生かせるように環境づくりを行いたい。引き続きSCによる研修等を継続して行い、職員の多様な生徒に対応する力を高めていきたい。</p> <p>○清掃区域の再検討が必要である。また、学校行事の機会も利用しながら全校生徒で校内美化に努めるように計画を立てていきたい。</p>
		支援が必要な生徒を把握し、個別の支援計画・指導計画の作成と教育相談を行う。 職員研修を通じて職員の多様な生徒に対応する力を高めるとともに、学年会、授業担当者会等で支援が必要な生徒の情報を提供することで、全職員が共通認識を持って適切な指導が行えるようにする。	A A			
教育相談	課題を抱える生徒への早期対応	課題を抱える生徒や保護者を、専門医療機関、専門職（医療カウンセラーやSC）に適切につなぐ。	A	A	A	
	特別支援教育の充実	支援が必要な生徒を把握し、個別の支援計画・指導計画の作成と教育相談を行う。 職員研修を通じて職員の多様な生徒に対応する力を高めるとともに、学年会、授業担当者会等で支援が必要な生徒の情報を提供することで、全職員が共通認識を持って適切な指導が行えるようにする。	A A			
環境美化	生徒美化委員会の充実と活性化	美化強化週間の実施を通して、清掃への生徒の意欲を高める。 美化委員会が清掃時間に放送で呼びかけ、全校生徒に毎日15分間、心を込めた清掃を行う習慣を定着させる。	B A	A	A	
		美化強化週間の実施を通して、清掃への生徒の意欲を高める。 美化委員会が清掃時間に放送で呼びかけ、全校生徒に毎日15分間、心を込めた清掃を行う習慣を定着させる。	B A			
進路部 キャリア教育	生徒に高い志を持たせるキャリアプランニング力の育成	自己管理手帳とClassiを活用し、各分掌・学年と連携して、生徒が自ら学ぼうとする姿勢を伸ばす。 探究活動と進路ガイダンスを通して生徒のキャリアプランニングの基礎を構築する。 生徒・職員向けの進路情報の提供を充実させ、キャリアプランニングに対する意識を高める。	B A B	B	B	
		模擬試験等に向けたPDCAサイクルを確立させ、学習内容の定着化を図るとともに、GTZに応じたきめ細やかな指導を行う。 就職希望者向けの対策講座の充実を図るとともに、対策勉強会を実施し希望の進路実現に向けて主体的に取り組ませる。 公務員希望者に向けた課外授業、保護者説明会、事前指導等の内容を深化し、進路実現の支援を充実させる。	B A A			
進路指導	模擬試験等の事前事後指導の徹底と希望進路の実現に向けた取組の充実	3年間を見通した「MJCプロジェクト」実施計画を確立し、職員・生徒の共通理解を図りながら課題対応能力の伸長につなげる。 各学年ごとに探究成果を共有する機会を設定し、PDCAサイクルを確立する。 探究内容と希望進路がつながる活動を取り入れることにより、主体的に進路実現に取り組む意識を高める。	A A B	A	A	
		3年間を見通した「MJCプロジェクト」実施計画を確立し、職員・生徒の共通理解を図りながら課題対応能力の伸長につなげる。 各学年ごとに探究成果を共有する機会を設定し、PDCAサイクルを確立する。 探究内容と希望進路がつながる活動を取り入れることにより、主体的に進路実現に取り組む意識を高める。	A A B			
探究活動	「MJCプロジェクト」における課題研究成果の共有による課題対応能力の伸長	3年間を見通した「MJCプロジェクト」実施計画を確立し、職員・生徒の共通理解を図りながら課題対応能力の伸長につなげる。 各学年ごとに探究成果を共有する機会を設定し、PDCAサイクルを確立する。 探究内容と希望進路がつながる活動を取り入れることにより、主体的に進路実現に取り組む意識を高める。	A A B	A	A	
職員研修	教師の資質向上を図る研修の推進	本校の課題をふまえた効果的な研修を計画実施する。また、研究授業や相互授参観週間を活用して、「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善」を推進し、教科指導力の向上を図る。	A			
人権教育	人権・同和教育の充実	本校の人権教育全体計画に沿い、学校教育の全領域における人権・同和教育の取組を推進する。	A	A	A	

B	・SNSによる発信がよく行われている。今後、生徒自身による発信はできないだろうか。見る人にとって生徒目線の発信の方がよりリアルに伝わるものがあると思われる。 ・生徒募集に効果的な方策を、他校等の好例も参考に工夫していくとよいのではないが。
	・いじめ・生活アンケートや交通安全に向けた取組など、こまやかに実施されており、保護者の立場からも安心できる。 ・地域貢献については、ボランティア部だけでなく学校全体としてさらなる取組を期待する。
A	・安心安全な環境づくりについて、適切に計画が実施されている。
	・就職の好成績を含め、多様な進路実績を一般にもわかりやすく発信していくとよいのではないが。 ・高校入学時に明確な将来の希望を持っている生徒はあまりいないのが現状ではないか。入学した後に、生徒が自分の適性や希望を見つめ、それぞれの進路を見つけられるような進路指導を期待する。

一般教養コース	生徒の学力伸長	模試結果等から生徒の学力を把握し、教科と連携しながら学力の伸長を図る。また生徒の進路目標を踏まえ、受験方法や進路先を提示する。	A			○前年度（現2年生）の一般教養コース入学者合計数より、本年度（現1年生）の一般教養コース入学者合計数が増加しているのは、広報課の先生方を中心とした広報活動が功を奏し、一般教養コースの魅力が伝わった結果であると考え。更なる魅力向上のために、三猪高校の一般教養コースでなければならないものを築き上げなければならない。 ○各教科と学年、クラスが連携して生徒個々人に対する細やかな指導が実施されていると感じている。具体的には、学年を中心に、生徒たちの進路実現に向けた学力保障のための学習会である。これが学年依存に陥らず、学校としてどう取り組んでいくかを今後検討していく必要があると考える。 ○主な課題として、まだまだ三猪高校の「一般教養コース」の認知度が高くはないと強く感じている。「一般教養コース」の認知度を高めていくために、三猪高校の一般教養コースで学ぶメリットや意味などを本校教員・在校生・保護者等を中心に理解を深めたい。併せて、一般教養コース独自の取り組みを行うことで、周辺地域から徐々に認知度を高めていきたい。
進学対策	活動実績となる諸活動の研究	進路先に活動実績として報告できる活動について、従来のものと併せて開拓・整理すると共に、生徒の積極的な取り組みを支援する体制を整備する。	B	A		
	総合的な探究の時間での探究活動の実施	総合的な探究の時間で実施するMJCプロジェクトを通して、探究活動を実施し、進学等に必要な力を身につけさせる。	A			
就職対策	公務員試験対策の充実	各教科と連携して一般教養を生徒に身につけさせるとともに、模試等を活用し、進路指導の充実に繋げる。	A	A	A	
	就職試験対策の充実	進路部や学年と連携して、就職を希望する生徒に必要な学力を身につけさせるとともに、面接練習を計画的に行う。	A			
	社会人としてあるべき基本的マナーの定着	学年・クラス担任等と連携して、日常的に言葉遣いや期限の厳守など、社会人としてあるべきマナーの定着に向けて、将来を意識した指導の実施を図る。	A			
基礎学力向上	学びへ向かう姿勢の涵養と基礎学力の定着	生徒が社会で生き抜くための学力の重要性を学ばせるとともに、具体的な進路目標を持たせ、学習結果を数値などに可視化して学ぶ姿勢を養う。Classiなどの学習教材を活用して生徒の家庭学習の内容を把握するとともに、見て学ぶ内容を生徒に示して学習が継続できるようにする。	B	B		
スポーツ文化コース	重点6競技の実績向上と「スポーツの三猪」の県内外へのアピール	全国大会30名・九州大会50名以上の出場を果たすとともに、チーム競技の実績向上を図る。	A	A	A	○魅力ある三猪高校・スポーツ文化コースにするためには、魅力ある生徒の育成が必要である。魅力ある生徒になるには、自発的に行動できることが不可欠である。指示を待って行動するのではなく、生徒自らが課題を発見できるようにしたい。 ○スポーツ文化コース集会を定期的に開催することで、いろいろな角度から生徒に話をすることができた。一定の効果があったので継続して行う。小中学校の体力測定補助実習は、校内では学ぶことができない体験をすることができた。今後、回数を重ねることで、より教育効果が上がると思われるので、回数を増やしていきたい。 ○生徒確保については、地域行事に参加して更にアピールしていくこと、中学校との連携を図ることに力を注ぐ。SNSの発信については、外部にアピールできる内容が豊富にあるので、校内で協力していきたい。
競技力向上	生徒の主体性の醸成	体育科職員、クラス担任と連携を図るとともに、スポーツ科学トレーニング、スポーツ文化講座等授業での仕掛けを作る。また、スポーツ文化コース集会を計画的に行う。	A			
	質の高い練習環境の整備	練習時間を確保するとともに指導者のレベルアップを図る。また、練習施設を適切に管理する。	A			
授業の充実	三猪高校の価値を高めるため工夫	小学校体力測定補助実習、スポーツ教室、体力測定実習、スキー実習を充実させるとともに、魅力ある授業を行い、魅力ある生徒を育成する。	A	A		
生徒確保	生徒の人間力の向上	学校行事、委員会活動、地域行事に積極的に参加させる。	A	B	B	
	より質の高い生徒の確保	中体連や各大会を視察する。	B			
		中学校やクラブチームとの連携を図る。	B			
事務関係	教育環境の整備、充実	新学習指導要領の年次進行に合わせ、教務課と連携しながら教材等の計画的購入を進めていく。 学校施設の老朽及び不具合箇所について、優先順位を付し、県施設課と連携しながら計画的に改修を進めていく。 教育のICT化及び学校広報活動に対応するため、継続してICT機器等の整備を進めていく。	A A B	A	A	○学習指導要領改訂に伴う必要な指導書については、本校の分権予算の組替や県への予算要望等により引き続き計画的な整備に努めたい。 ○今年度の施設の不具合対応については、漏水（屋上防水）補修など日頃の教育活動に影響が大きい事項を優先し対応することが出来た。次年度も同様に取り組むたい。 ○経年劣化による階段の滑り止めの擦り減り箇所の補修など、次年度以降も生徒や職員の安全確保の観点から危険箇所の把握と災害・事故の未然防止に努めたい。 ○県全体で学校事務職員の定数見直し（削減）が進む中、これまで以上に各業務の効率化が必要であるため、職員（教員）への依頼・連絡体制をはじめ、事務処理における事務職員間の相互チェックの機能強化を図るなど今後も工夫しながら取り組みたい。
生徒・教職員等の安全安心の確保	事故等の未然防止による、生徒・教職員等の生命・財産の保全	学校施設について5月末までに安全点検を実施し、事故等の未然防止に努める。※保健環境課と連携 新型コロナウイルス感染症対策や熱中症対策等については、保健衛生用品の迅速かつ計画的な購入を進める。※保健環境課と連携	A B			
円滑な事務処理の推進	業務改善の視点に立った円滑な事務処理と教育活動への支援	事務室からの職員への連絡は、学校ポータルサイト内の連絡掲示板を活用することで、職員への周知漏れを防ぐとともに、職員朝礼における事務連絡の時間短縮を図る。 職員（教員）出張時における出張命令書の記入について、旅費計算支援ソフト（改訂版）の活用を周知し、職員（教員）及び事務室旅費担当者の業務効率化につなげる。 電話対応のマニュアル化を行い、丁寧な対応を心掛けるとともに業務の効率化を図る。	A A B			

A	・スポーツ文化コースだけでなく、普通科一般の進路実績等をさらにわかりやすく示していけるとよい。 ・本校に進学すれば将来の進路が見つかる、と期待できるような特色化をさらに進めてほしい。
A	・佐賀県等からの入学者もあり、他県にもスポーツ文化コースの魅力が届いている証拠である。福岡県内だけでなく、他県にもさらに情報発信していくとよいのでは。また、県内でも中体連において大会出場の条件が変わりつつある。そのことも意識しつつ、適性を持った生徒たちを見出す取組に期待する。 ・メジャースポーツやそうでないスポーツで異なるところもあるだろうが、外部指導も充実させながら効果的な環境を整えていくとよいと思われる。
A	・適切に計画が実施されている。 ・安全な環境づくりを今後も続けてほしい。

評価項目以外のものに関する意見

・地域全体で子供の数が減少している今、少数精鋭も一つの手段という考え方も必要であると思われる。強みを生かした教育を意識していくとよいのではないか。
・食堂が撤退となったが、その代替となる方策を講じ、生徒に快適な環境となるような工夫を期待する。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・生徒主体の学校行事の実施及び探究活動の深化等により生徒の活躍の場面を増やし、自分の考えを自信をもって人前で表現できる生徒の育成につなげる。
- ・少人数であることを強みとして生徒一人一人に寄り添う指導を行い、生徒が将来の夢を見つけ、第一志望進路の実現を可能にする学校づくりを進める。
- ・地域資源の活用も含めた地域との連携を推進し、部活動の活躍以外の面においても三猪高校の特色化、魅力化を図り、発信していく必要がある。